

干潟内のカニの分布

■カニの分布

先月の調査では七北田川河口域のカニの分布を確認したが、今回は干潟内の分布を調査した。干潟内は砂地が多く、コメツキガニが広く分布している。また、岩やコンクリートの隙間、ヨシの近くなどの巣穴を掘りやすいところにはアシハラガニの巣穴が見られる。

干潟の北部の底質はやや粒子が細かいが、チゴガニやヤマトオサガニが好むほど細かな泥地ではなくやはりコメツキガニ、アシハラガニの巣穴が見られた (Fig. 1)。

粒子の細かな泥地は日和山東側下の池・湿地に見られ、そこにはチゴガニやヤマトオサガニの姿が見られた (Fig. 2)。また干潟内ではケフサイソガニの抱卵個体 (Fig. 3)、大型のガザミが採集された。今回の調査では採集できなかったが、昨年、一昨年とガザミの稚ガニが七北田川河口で多数採集されている (レポートNo74, 93参照)。6月には大型のモクズガニも採集されており (Fig. 4) 蒲生干潟はカニの繁殖にとって重要な場所であると思われる。



(Fig.1 干潟北部のアシハラガニの巣穴)



(Fig.2 ヤマトオサガニ)



(Fig.3 ケフサイソガニ)

■久しぶりのマハゼ

Fig. 5は干潟内で採集したマハゼである。体長は約10cmで、今年産卵され成長した個体と考えられる。震災前はハゼ釣りの名所として知られていた蒲生干潟であるが、昨年・今年と干潟内では姿を見られなかった。今後以前のように多くのマハゼが見られる蒲生干潟になることを期待している。

今回の調査ではクロソイの幼魚も採集された。昨年の8月にもクロソイの幼魚が採集されており (レポートNo93参照) 一定期間クロソイが蒲生干潟で過ごし成長する可能性が考えられる。

(Fig.4 モクズガニ 2019.6.12 干潟内で採集)



(Fig.5 マハゼ 干潟内で採集)



(Fig.6 クロソイ)